

# Waseda Vision 150 本庄高等学院の将来構想の進捗状況報告

## 1. 2025 年度報告

### (1) 入試関連

全国・世界から多様で資質の高い生徒を受け入れるために、入試改革（基礎学力や入学後の学習意欲等を適切に判定するための選抜方法の見直し）と教育環境の充実に取り組みました。

- ① 男女とも平等に資質の高い生徒を受け入れるため、2026年4月入学者対象の入学試験（2025年度実施）より、入学定員を下表のとおり変更しました。

入学試験種別 定員	変更前（2025年度）		変更後（2026年度）	
	男子	女子	男子	女子
一般入学試験	約100名	約70名	約95名	約95名
帰国生入学試験	約15名	約10名	約10名	約10名
α選抜（自己推薦入学試験）	約45名	約30名	約30名	約30名
I選抜（帰国生自己推薦入学試験）	合計約20名		合計約20名	
指定校推薦	合計約30名		合計約30名	

結果として、2026年度の入学者は以下のとおりとなりました。

入学試験種別 入学者数	変更前（2025年度）		変更後（2026年度）	
	男子	女子	男子	女子
一般入学試験	95名	71名	90名	91名
帰国生入学試験	12名	8名	11名	5名
α選抜（自己推薦入学試験）	48名	32名	35名	35名
I選抜（帰国生自己推薦入学試験）	10名	12名	12名	12名
指定校推薦	14名	27名	15名	23名
合計	202名	161名	163名	167名

- ② 多様な生徒を受け入れるための受け皿としての寮について、早苗寮（男子寮）、梓寮（女子寮）の魅力作りを進めてきました。

### (2) 教育関連

#### ① 新カリキュラム点検評価

2024年度をもって完成した新カリキュラムの点検評価、見直しを行い、更に教育効果の高い授業の実施、高大連携による基盤教育の充実に取り組みました。特に授業改善に向けての取り組みが個人単位にとどまっていた点を課題と捉え、教科横断型授業、Faculty Development への取り組み等、組織的な取り組みを強化しました。

#### ② キャリア教育

ミスマッチのない学部進学と将来設計を目指し、学部との教育活動の連携や情報交換を密にするとともに、従来からのオフィシャルな学部説明会に加えて、本学院独自のキャリア教育・進路指導教育プログラムの充実をはかりました。

##### (イ) 大学キャンパスでの学部説明会

2学年を対象に早稲田大学の早稲田キャンパスで各学部関係者による学部説明会を行いました。

##### (ロ) 9月に集中的に開催するキャリアデザインウィーク

#### 【進学の一部】

早稲田大学の各学部から講師をお招きし、各学問分野で最先端をいく高度な内容の講義を、高校生の理解度

に合わせて実施しました。附属校生徒として大学での学びを意識し、また、ミスマッチのない進路選択をするための情報を得る機会となりました。

#### 【就職の部】

多彩な就職先の卒業生が集い、学院生活や学部選択、大学生活や就職活動の話を熱心に披露してくれました。各分野でのトップランナー達の話は大変興味深く、参加した生徒たちは熱心に講師の話に耳を傾けていました。

#### (ハ) 月一度のキャリアデザイン講座

第一線で活躍中の卒業生によるキャリアデザイン講座を月一度のペースで実施しています。学部で何を学ぶか、どんな未来を描くかをイメージできるよう、進路指導の充実を図りました。

#### (二) 日本医科大学学校説明会

指定校推薦枠のある日本医科大学の説明会を5月に日本医科大学千駄木キャンパスで実施しました。説明会では学校の紹介に加え、模擬講義等が実施され、医学の道を志すうえで的心構え等の指導が行われました。

#### (ホ) アントレプレナーシップ活動プロジェクト

今年度は日本政策金融公庫の協力を得ながら、高校生がアントレプレナーシップを身に付けるためのワークショップを年4回開催しました。最終的に4チームが日本政策金融公庫主催の「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募し、全国の高校と、ビジネスプランを競い合いました。

#### ③ 地域貢献・連携

本庄市および近隣地域への貢献活動・還元活動、地域企業との連携活動を以下のとおり行いました。これらの活動は地域への貢献にとどまらず、本学院生にとって、学外で責任ある活動に取り組むことで新たな視点や机上の理論だけでは実現できないスキルを獲得するとともに、自身の知識や経験を小学生等に伝える過程を通じてコミュニケーション能力やリーダーシップを育むことができる貴重な学びの機会にもなっています。

- ・地域小学校への総合学習支援活動（本庄早稲田国際サーチパークとの連携）
- ・地域小学校への国際理解教育支援活動（本庄早稲田国際サーチパークとの連携）
- ・本庄市民総合大学・こども大学本庄への協力（本庄市との連携）
- ・地域企業との連携活動（「ほんじょう FM」、「JA ひびきの」との連携）
- ・こども科学教室の開催（本校主催）
- ・その他地域との連携活動

#### ④ 奨学金

入学後の勉学を経済的側面から支援することも目的とした「本庄高等学院奨学基金」について、その他の基金との整理統合により、奨学金額の年額 20 万円から 30 万円への増額および奨学生数の 3 名から 12 名への拡大を実現しました。

#### (3) 研究関連

本学院の専任教員、非常勤講師等による研究論文や調査報告を掲載した「研究紀要」を年 1 回刊行しました。

#### (4) 国際関連

学院生の留学先を斡旋するなど、派遣留学を促進するとともに、留学生の受入プログラムも充実させることで、学院生と留学生がともに考え、学ぶ機会を設け、相互の成長につなげていきました。

#### ① 長期派遣留学制度

2025～2026 年度にかけて、第 1 種留学（復学時に 1 年遅れとなる留学）で 2 名（ベルギー 1 名、香港 1 名）が留学しています。

#### ② 短期留学プログラム

ニュージーランドの政府機関 Education New Zealand（ENZ）と早稲田大学国際部との連携、Air New Zealand の協力により、ニュージーランド短期留学「キア・オラプログラム」を 2022 年度より実施しています。2025

年 8 月には 27 名、2026 年 3 月には 9 名の本学院生が 2 地域（Palmerston North、Hawke's Bay）の各校に分かれて、通常の授業の他に、英語レッスン、課外活動、小旅行、交流会、ホームステイ等を通じて学び、充実した 2 週間の海外プログラムを経験しました。

また、今後の長期留学プログラムの実現に向けて、5 月に Palmerston North Girls' High School の校長および国際部教員の来訪を受け、懇談を行いました。

コロナ禍以前より実施されていた、韓国ソウル市の Hana Academy Seoul との短期交換留学も 2024 年度より再開され、2025 年度は 6 名生徒の受け入れ、6 名生徒の派遣を行いました。

### ③ 受入留学生

受入留学生が、個性を大事にしながら本学院生と一緒に成長できるように、滞在中の教育プログラムをさらに充実させました。台湾、中国、タイからの長期留学生を受け入れ、それぞれの言語レベルと興味関心に応じた個別の時間割を作成し、学習支援を行いました。部活動や学校行事の他、地域の国際理解を深める企画や、日本文化を知るためのフィールドワークに積極的に参加し、充実した留学生生活を過ごすことができました。

### ④ 留学説明会の実施

大学進学後の留学を視野に入れている生徒、保護者向けに、早稲田大学留学センターとの共催による留学説明会をオンラインで開催しました。

### ⑤ 姉妹校との国際交流

長い SSH・SGH 期間中に培われた海外校とのネットワークに基づく姉妹校への訪問および受け入れを下表のとおり実施しました。参加生徒は随時募集し、各活動においては生徒主体でコーディネートを行いました。

国	学校名	訪問時期/生徒数	来訪時期/生徒数
タイ	Mahidol Wittayanosorn School	1～2 月/10 名	10 月/8 名
台湾	台中第一高級中学	10 月/200 名	5 月/10 名
台湾	台南第一高級中学	8 月/12 名	7 月/12 名（2026 年）
韓国	セロナム高校	—	7 月/11 名
韓国	Hana Academy Seoul	7 月/9 名	1 月/6 名
韓国	安養外国語学院	10 月/140 名	

台湾の国立台南第一高級中学と MOU を締結しました。この他に、台湾の高雄高級中学とは小型水力発電機における羽根の形状と発電効率の関係について、共同研究を行いました。

## （5）その他

### ① 教員の働き方改革

部活動顧問の負担軽減をはじめとした「教員の働き方改革」に関する施策を実施し、学習指導や生徒指導等、教員が本来担うべき業務に注力できる環境を整えました。

#### （イ）勤務管理の開始

教員の健康と安全を守ることを目的として、3 か月のフレックスタイム制度の開始とともに、勤務管理システムによる勤務管理を開始し、教員の勤務実態を可視化しました。これに伴い、会議時間の短縮化・紙媒体資料の削減など、教職員業務のスリム化を一層進めました。

#### （ロ）部活動指導員制度の活用促進

部活動顧問の負担軽減を目的とした「部活動指導員制度」の活用を促進し、指導員の契約日数は前年度比で 4.3 倍に増加しました。（2024 年度 61 日から 2025 年度 260 日）

#### （ハ）試験採点業務の省力化

試験答案採点の省力化のために導入したデジタル採点システムについて、利用した答案枚数は前年度比で 7 倍に増加しました（2024 年度 883 枚から 2025 年度 6141 枚）。

## ② SDGs 目標 5「ジェンダー平等」の実現

女子生徒の増加に合わせて、SDGs 目標 5「ジェンダー平等」の実現に向けた教育的な取り組みを強化すると同時に、受験生にとって魅力となる「みんなに居心地の良い」学校環境づくりに必要な環境整備を進めました。

### (イ) 生理に関する研修の実施

生理に関する知識向上と学校における相互理解促進を目的としたプログラム「みんなの生理研修」を株式会社ユニ・チャーム様のご協力を得て実施しました。

### (ロ) 生理用ナプキンの無料配布

生理用ナプキンの無料配布に関する実証実験を異なる手法で3度にわたりで実施し、結果として、2026年度からの生理用ナプキンの無料配布開始とタッチレスサニタリーBOXの導入を決定しました。

以上

## 2. 2026年度計画

### (1) 入試関連

全国・世界から多様で資質の高い生徒を受け入れるために、入試改革（基礎学力や入学後の学習意欲等を適切に判定するための選抜方法の見直し）と教育環境の充実に取り組みます。

- ① 2026年4月入学者対象の入学試験（2025年度実施）より、入学定員を下表のとおり変更します。これにより男女格差の解消を目指します。

入学試験種別	変更前	変更後
一般入学試験	男子：約100名 女子：約70名	男子：約95名 女子：約95名
帰国生入学試験	男子：約15名 女子：約10名	男子：約10名 女子：約10名
α選抜（自己推薦入学試験）	男子：約45名 女子：約30名	男子：約30名 女子：約30名
I選抜（帰国生自己推薦入学試験）	男子・女子合計：約20名	男子・女子合計：約20名
指定校推薦	男子・女子合計：約30名	男子・女子合計：約30名

- ② 多様な生徒を受け入れるための受け皿としての寮について、早苗寮（男子寮）、梓寮（女子寮）の魅力作りを進めていきます。また、国内遠隔地の入学希望者を獲得するための広報活動をさらに強化します。

### (2) 教育関連

- ① 2024年度をもって完成した新カリキュラムの点検評価、見直しを行い、更に教育効果の高い授業の実施、高大連携による基盤教育の充実に図ります。特に授業改善に向けての取り組みが個人単位にとどまっていた点を課題と捉え、教科横断型授業等、組織的な取り組みを強化します。
- ② AIを教育に活かすことは必須であり、また教科を問わずデータサイエンス教育が求められていることを考え、その積極的な教育展開を行い、日本における先進校を目指します。
- ③ 地域・企業との連携プロジェクト、環境保護活動、国際交流、各種コンテスト参加、アントレプレナーシップ教育など授業以外の多様なプログラムにより、社会貢献への意識とリーダーシップを育成します。
- ④ 本学院設立以来の教育の特色である卒業論文を軸とした「アカデミックリテラシー教育」をより充実させるとともに、成果である論文の積極的な外部評価を得る努力をします。
- ⑤ ミスマッチのない学部進学と将来設計を目指し、大学入学後に必要な基礎学力（アカデミック・ライティング、数学、データ科学、情報、英語4技能）と知的好奇心を備え、他の学生をリードするような早稲田大学の中核を担う学生を育成します。学部との教育活動の連携や情報交換を密にするとともに、本学院独自のキャリア教育・進路指導教育プログラムの充実をはかります。

### (3) 研究関連

本学院の専任教員、非常勤講師等による研究論文や調査報告を掲載した「研究紀要」を刊行します。

### (4) 国際関連

学院生の派遣留学を促進するとともに、留学生の受入プログラムも充実させることで、学院生と留学生がともに考え、学ぶ機会を設け、相互の成長につなげていきます。

- ① 1年間の留学を経験しても、その1年間を含む高校3年間で卒業できる留学制度を活かし、本学院から海外に羽ばたく生徒の増加をめざします。
- ② Education New Zealandとの協定に基づく留学プログラムとして、既に短期留学プログラムが展開されていますが、長期留学プログラムの実現に向けた交渉を行い、学院生の心理的ハードルを下げた状態で長期留学にチャレンジできる環境を整えます。

- ③ 長いSSH・SGH 期間中に培われた経験と国内・海外校とのネットワークに基づく、Mahidol Wittayanusorn School (タイ)、Hana Academy Seoul (韓国)、台中第一高級中等学等との相互訪問交流を拡充するとともに、新たな交流先と将来的な国際交流プログラムの開発を目指します。また、現在、Hana 高校との間で実施しているような、相互留学生派遣の可能性を検討します。

#### (5) その他

- ① 多様化・グローバル化の時代の中で、本学院では教育リソースを学外にも求め、地域の特性を活かした、より効果的で高いレベルの教育を目指すとともに、地域への貢献を常に意識し、地域の文化的中心になることを目指します。
- ② 学院生に対して、**文化・人種・国籍・障がい・ジェンダー・政治的信条などの違いを相互に受け入れる**ための配慮や態度、行動を促すダイバーシティ教育を実施するとともに、教職員に対しても同様の研修を実施することで、本学院生と教職員が安心して学校生活を送ることができる環境を整えます。女子生徒の増加に合わせて、SDGs 目標 5「ジェンダー平等」の実現に向けた教育的な取り組みを強化すると同時に、必要な環境整備を進めていきます。ジェンダーギャップの解消に向けた取り組みの 1 つとして、4 月から生理用ナプキンの無料配布を開始し、合わせてタッチレスサニタリーボックスを設置します。これらの努力を通し、「誰にとっても居心地の良い学校」を目指します。
- ③ 高校教育は生徒・教職員に加え、保護者の三位一体でより良い教育を目指すことができるという考えのもと、保護者向け講座・本庄キャンパスツアー等保護者へのサービスを実施し、保護者の本学院教育への理解に繋がります。
- ④ 2025 年度より開始した教員の勤務管理制度により顕在化した長時間労働の問題について、部活動顧問をはじめとした施策の実行と新たな施策の検討による見直しを実現します。

以上